

元社会部記者・
八木たくまが
4年間の議員活動をもとに分析する、
転換が必要な理由

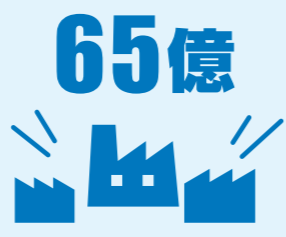


なぜ今、転換なのか

- 自分たちのため
- 子どもたちのため
- 孫たちのため

工場誘致を、地元企業支援に転換

現市政は企業誘致に65億円の予算を投入しましたが、「人口を維持する」との本来の目的には効果は薄く、人口は減り続けています。その要因として、「進学で伊那を離れた若者が希望する就職先」と、誘致した工場との間にミスマッチがあるためだと考えます。八木たくまは、企業誘致の補助金適用は「本社の移転」のみに絞り、地元の中小企業への支援や起業支援に予算の使い方を転換します。



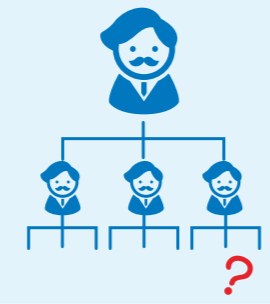
山岳観光を、市民が潤うよう転換

現市政は山岳観光も主要施策とし、山小屋建設やジオ・エコパーク推進など、莫大な予算とマンパワーを投入してきました。しかし、登山客が市内にお金を落としてくれる仕組みづくりはできず、市民益になっていません。八木たくまは、伊那まち中心商店街や高遠の市街地を登山客が訪れ、地域が潤う仕組みを作ります。



「あれもこれもトップは市長」を転換

現市政は、市長が市関連のあらゆる組織のトップを兼任しています。3セクの伊那市観光や上伊那森林組合など、運営が厳しい組織もあり、あれもこれも兼務では適切な運営は困難です。この問題は議会や市の監査委員からも指摘されています。八木たくまは、内部昇格や全国公募などの手段で兼務状態を解消し、各組織が健全に運営できるよう転換します。



丁寧な対話の行政に転換

保育園の統合・休園の際は、決定事項として市民に突然通知する手法に対して大きな反発がありました。また、消防職員自殺の悲劇や、塩見小屋管理人公募の問題では、訴訟に発展する事態となっています。いずれも丁寧な対話をしなかったことが根底にあると考えます。八木たくまは、丁寧に意見を聞き、説明する行政に転換します。



1期4年で8,300万円…。身を切る姿勢に転換

財政再建は重要ですが、公共施設の統廃合等、市民の痛みも伴います。職員給与水準も県内19市の中で最も低く、職員の非正規化も急激に進みました。一方、現在の市長給与は19市で5番目。八木たくまは、市長給与(年間1,535万円)を半減、退職金(1期ごと2,227万円)を全額カットし、痛みを共有する姿勢に転換します。



徹底的に子育て支援。現役世代に選ばれる伊那に

- ◆給食費の無償化 ◆中高生の部活送迎支援 ◆給付型大学奨学金制度創設 ◆子供医療費の窓口完全無料化 ◆保育料の軽減 ◆子どもの一時預かり施設を検討 ◆新婚家庭の住宅建設や改築に補助 ◆幼児期教育の充実、保育の質向上で「人生のつまずき」をなくす ◆「ママ人材センター」の創設 ◆子どもの遊び場の確保 ◆保育園存廃は住民判断で ◆婚活支援は広域連携の総力戦で ◆シングルマザー、シングルファザーの婚活企画を広域で ◆妊活支援を充実 ◆ひとり親家庭の子育て支援 ◆メールや SNS 活用で、伊那を出た若者たちに地域の情報を送り続ける仕組みの構築 ◆30歳成人式の開催でUターン促進

中心市街地を全力活性化。交流と観光の拠点に

- ◆駅前廃墟をすべて再生、中心市街地に活力を ◆学生の中心市街地居住推進 ◆楽しいイベント支援で人が集う地域に ◆中心部に銭湯を復活 ◆駅前に中高生の居場所づくり ◆空き家、空き店舗対策に専門チームを設置 ◆中心市街地の公営駐車場無料時間延長 ◆商店街の路上駐車可能ゾーンを検討 ◆出店補助制度拡大で飲み屋街の振興を ◆飲んで交流、皆で元気に！！夜の公共交通を検討 ◆「こんなことしたい」を実現し、人と人がつながる「伊那未来会議」を開催 ◆労働会館整備を支援

地元産業振興策と起業支援。農林業で雇用を生む

- ◆企業誘致補助は本社移転のみに限定。地元産業振興重視に転換 ◆地元企業の事業多角化への支援 ◆賞品は創業資金。起業コンペで仕事を増やす ◆地元事業者の採用支援と PR 支援 ◆農業機械の購入補助拡大 ◆農家の外部販路拡大の支援 ◆地元産材活用補助金で林業を産業に ◆ワイン特区を検討 ◆事業後継者公募制度で地域の仕事を未来へ引き継ぎ、雇用も確保 ◆横並びの教育を脱し、地域の50年後のためにチャレンジできる人材育成を ◆高速バス貨客混載活用の新宿アンテナショップを検討

市民目線で行政改革。市政情報をフルオープンに

- ◆市長給与半減、退職金カット ◆女性副市長を ◆幅広い意見を取り入れるために議会のクォーター制導入を提案 ◆市民目線で事業を整理し、未来への予算とマンパワーを確保 ◆市の最高意思決定機関の「庁議」をフルオープンに ◆市の意思決定に SNS 上の議論を ◆職員を「市民目線のまちづくりプロデューサー」に意識改革 ◆ラスパイレス改善で、優秀な人材を確保 ◆行き過ぎた市職員非正規化路線を修正 ◆顧問弁護士を地域の弁護士に ◆ふるさと納税の具体的な使途を市民参加で議論 ◆記者目線で「市報いな」を市民の情報誌に

選ばれる伊那へ
八木の8つのビジョン、80+αの政策



人生100年時代に向けた健幸都市、支えあう伊那に

- ◆住み慣れた地域で老いることができる仕組みづくりを検討 ◆公共交通、デマンドタクシーのより良いあり方を検討 ◆スポーツ施設と講座のお試し券配布で健康増進日本一 ◆買い物難民はドローンより「人から人」へ ◆障がい者世帯の訪問支援 ◆農業、内職プロジェクト等への雇用促進で障がい者の社会参加を支援 ◆障がい者の親なき後の安心を守る

人とお金を呼び込み、地域内で循環する経済に

- ◆山岳観光を市民益に、伊那まちと高遠をアルプスの登山基地に ◆観光協会を地域に人を呼び込む旅行会社に ◆多言語情報発信でインバウンド誘致 ◆農産物の地域内流通を支援 ◆地域産材を活用し、地元の職人が手がける伊那モデルの住宅展示場を整備 ◆集客施設の薪ストーブ普及で「ぬくもり」「環境」を PR ◆看板の意匠統一で景観都市に ◆田園風景を伊那の資源に

3市町村合併を後悔させない

- ◆高遠、長谷で移動市長室 ◆総合支所を地域活性拠点として整備 ◆過疎地域に公共住宅を整備 ◆高遠を歴史文化の通年観光地に ◆長谷と西部地区をアウトドアレジャーのメッカに ◆鹿嶺、入笠高原を世界級リゾートに ◆高遠、長谷支所にエース級職員を配置 ◆南アルプス村、仙流荘を地域活性拠点に ◆3セク「伊那市観光」を掲げる会社に ◆過疎地域に集落支援員を配置 ◆長谷に登山学校、高遠に蕎麦学校創設で人とビジネスを呼び込む

声なき声に耳を傾け、願いが実現する伊那に

- ◆市民要望対応のワンストップ窓口を開設、要望は期限を示してスピーディーに回答 ◆毎週「市長とランチミーティング」 ◆幼稚園、保育園や公共施設に「こうなったらいいな ご意見ボード」を設置 ◆「要望」「陳情」何でもありの意見交換会を毎週開催 ◆地区役員や消防団員の負担軽減を行政が旗振り役で ◆区費等の改革を行政が旗振り役で ◆若手職員とのミーティングを定期的に ◆ごみ分別の負担軽減を ◆災害時の南信地域広域受援拠点を誘致 ★徹底的に市民目線の行政に！

【どんな小さな声でも。ご意見大募集！】

太字は重点項目です。このビジョンは、今後市民の皆さまとの意見交換会などを通してさらに充実させていきます。どんな小さなご意見でも、皆さまの声をぜひお寄せください。意見交換会は各地区で順次開催します。日程はホームページでお知らせします。

ホームページ <http://yagitakuma.com/>
tel 080 6995 1700 yagi.ina117@gmail.com